



研修のリモート化への取組み

研修部



今年度研修において、オンライン映像ツールを用いたリモート研修を実施することになりました。東西研修センタ合わせて約250ある研修の3割弱が集合からリモートに変更となります。

1. オンライン映像ツールの集合研修への適用

年度当初から企業、学校などが率先して在宅勤務やネットワーク授業を取り入れました。これに伴いZOOM、TEAMS等のオンライン映像ツールが広く認知され、急速に普及したのは周知のとおりです。

ITEA研修においても7月からの集合研修開始と同時にオンライン映像ツールを活用してきました。この時の使用目的は集合研修における密状態回避対策です。

具体的には、受講者同士の離隔を確保すると同時に受講希望数を減らさずに受け入れ、なおかつ講師の稼働を増やさないよう従来の1クラスを2教室に分けて収容し、一方は講師授業を、他方は同時配信される大画面映像を見ながら授業を受けるといったバーチャル1クラスを実現するための手段です。

5月末から東日本研修センタ内の接続環境を整え、オンライン映像ツールについては核メンバーを中心にインターネットで機能や使い方を調べ、試行確認しながら徐々にスキルを身につけ、職員同士の勉強会などによりリテラシーを広げていきました。

2. リモート化への取組み

集合研修開始と前後して日々のコロナ感染者数が大幅に増え、2度目の緊急事態宣言等により集合研修が中止になるやもしれない危機感と、同時に県間、特に東京圏への出張自粛ムードが出始め受講キャンセルの増加を実感し始めていました。そこで、ITEA研修においても居ながらにして受講可能なリモート研修実施に向け、急遽かつ本格的に取り組むことにしました。

検討するにあたり、既に集合研修においてツールを使い始めていたことから、その有効性、使用上の留意点などある程度把握できていたため、ツールに対する初期不安は薄らいでいた反面、リモート研修実現に向けて課題が多くあることも想像できました。

現在の研修は座学に加え演習、実習を多用し、頭に入れた知識を手や体全体で実感していくことで一連のスキルを効果的に身に着けるものとなっています。そのため、最もリモート化しやすい座学のみ研修はほとんどなく、いかに演習や実習を工夫するかまたは省略可能かなどの検討を精力的に実施しました。

一方でオンライン映像ツールの機能調査、使い勝手の確認などを進め、動画コンテンツの円滑な配信のコツ、グループ演習授業におけるグループ分け機能の活用実践などを積み重ねリモート化の範囲を広げていきました。

また、登壇する会員会社講師の皆さん、委託する研修会社の方々にも協力をあおぐことも同時に進めた結果、東西研修センタ合わせて約60コースをリモート化することができました。

およそ1カ月強の検討の流れをまとめると以下のようになります。既に多数の集合研修が始まっている中、並行して検討するのは大変なものでした。

- ・全研修のカリキュラム分析、リモートでの代替可能性検討
- ・リモート環境検討、接続検証、職員への勉強会
- ・オンラインツールの実現機能調査・検証、リモート研修への取り込み方法検討
- ・リモート研修向け受講フロー（申込～修了）の策定
- ・会員会社講師陣や委託会社への説明と協力依頼
- ・会員会社人材開発ラインへの取組み説明
- ・8月試行、9月以降本格実施

3. リモート研修の形態

リモート研修の形態はさして新しいものではありません。東西研修センタをホストとし、ZOOM（一部コースはTEAMS有り）を經由して講師と各受講者との間をつなぐ形態です（図1）。映像、音声とも双方向ですので、質問等にも対応可能です。なお、リモート研修は、研修センタ近隣の方も含め原則全員リモート受講となります。

講師は研修センタのリモート講義用の教室からホワイトボードやファイル教材、動画教材等を併用しつつ講義します。講義拠点としては、リモート講義環境や職員の

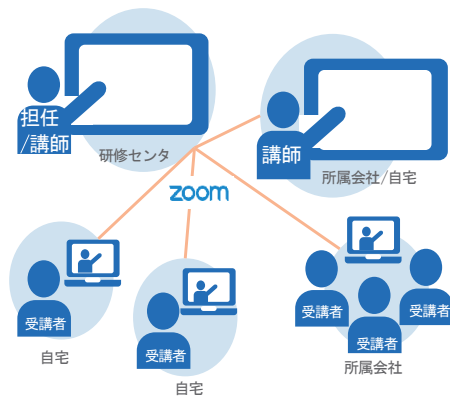


図1 リモート研修の形態

サポート等が充実している研修センタが望ましいと考えますが、来所が困難な場合は所属会社から講義することもできます。受講者は会社事務所、自宅などオンライン接続が可能な環境下でパソコン1台あれば受講できます。

受講申込は従来どおり研修開始日の前月10日までに行っていただきます。リモート研修の場合は受講者本人のメールアドレスなどの情報もいただき、研修2週間前を目途に受講者あて教材と接続案内などを送ります（今年度は既印刷物を配送としたが、来年度は極力ファイルダウンロード等で対応予定）。

受講者は事前に接続確認を行い、当日は受講者から研修（ミーティング）室にログインし、研修センタ側から参加許可されることで受講可能となります。

4. 講師、受講者の声

東日本研修センタでは8月の基礎研修土木科および9月上旬の土木設計科からリモート研修を始めました。

前者は試行として集合研修の講義を希望者6名にリモート接続し、後者は全員がリモート受講で、グループ分け機能を使った演習も実施しました（写真1～5）。

毎朝の研修参加時にはクラス担任から受講者ごとに各ロケの天気、体調を聴くなど、簡単な挨拶を通じて参加意識を高めることや、離れていてもつながっていることを全員で感じることができ、少人数のグループワークでは画面を通じてお互いの顔や動きを見ることで、直接対面するのとほぼ同様のコミュニケーションが取れることを実感できたようです。修了試験は上司の前で答案をつくり緊張したとの声も聴かれました。

受講後のアンケートとして、受講者からは、

- ・はじめてのリモートで戸惑うこともあったが研修目的は達成できたので良かった
- ・リモートならではの学び方を見つけない
- ・質問しやすく、常に互いの顔が見えているのがよい

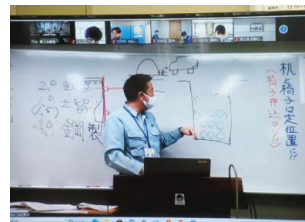


写真1 基礎研修土木科
(講義映像)



写真2 基礎研修土木科
(受講者の様子)



写真3 土木設計科
(研修当日朝の参加確認)



写真4 土木設計科
(グループワーク1)

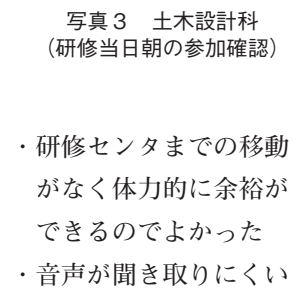


写真5 土木設計科
(グループワーク2)

- ・研修センタまでの移動がなく体力的に余裕ができるのでよかった
 - ・音声が聞き取りにくいことがあった
 - ・グループワーク機能等、映像ツール使用方法のヘルプがあるとよかった
 - ・リモートならではのグループワークコミュニケーションの質、量を改善する必要がある
 - 講師からは、
 - ・初めてのリモートに苦労したが、研修に臨みやすく受講者が増えると思う
 - ・資料の表示を素早くできるようにするなど、少しずつ改善していきたい
 - ・タイムラグなどリモートツールの癖を把握して臨む必要がある
- などが挙げられ、改善は必要なものの前向きな感想や意見を多くいただきました。

5. おわりに

今回多様なコロナリスクに備えるために急遽研修のリモート化に取り組んだところですが、使ってみるとITの現実と可能性を改めて実感するものとなりました。今後もリモート研修の実績を積み重ね、メニュー、内容、運用方法等を充実していく考えです。

最後に、今年度研修においては、リモート化による定員上限の拡大、集合研修のキャンセル多発等があることから、受講の追加要望があればぜひ各社の研修窓口を通じて申し込んでください。